

開催地名	千葉県 館山市
開催日時	令和7年2月2日(日)13:30~14:45
開催場所	館山市コミュニティセンター
語り部	石川 義憲(茨城県日立市)
参加者	館山市民 75名
開催経緯	本市は、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域に指定されており、外洋に面した海岸線では10m以上の津波が想定されている。また、本市は、房総半島の南端に位置することから、大規模災害の際は孤立する可能性があり、公助による対応の限界、関係機関からの応援が受けられない可能性がある。災害の実体験を聞き、住民の防災意識向上、地域防災力向上について参考としたい。
内容	■はじめに 1. 自己紹介 講演者は東日本大震災の際に2000人以上が避難した久慈中学校の校長として、避難所運営を経験した。現在は「一人の被害者も出さない」をスローガンに掲げ、各種防災訓練の実施や地域と学校との連携強化に取り組んでいる。 2. 茨城県日立市久慈学区について 久慈学区は、ひたち海浜公園から9kmの距離に位置し、港のある地域である。車の輸出拠点として機能し、ホクレン(北海道からの牛乳輸送)もこの港を利用している。日立市の防災対策は以前に比べて大幅に改善されたが、今後も油断は禁物である。 ■あの日のこと(東日本大震災の経験) 1. 想定外の災害 東日本大震災が発生するまで、地震や津波がこの地域を直撃するとは全く想定していなかった。避難の準備も何もない状態で災害に見舞われた。市が本格的に動き出すまでには3~4日かかると予想し、それまでの間は23のコミュニティが自主的に対応する方針をとった。 2. 津波とその影響 津波の後、火災が発生し、輸出用の車1400台が炎上した。日立港を乗り越えて津波が押し寄せ、町の被害は甚大だった。被害を受けたエリアは、ハザードマップとほぼ一致していた。 3. 避難所の運営と対応 地震発生時は帰りの会の時間帯であり、全校生徒と担任が教室にいた。卒業式の2日後で1学年年少ない状態だった。幸いにも、日頃の避難訓練が功を奏し、生徒は冷静に避難した。 4. 避難所の開設と運営 ・体育館を避難所として開放(窓ガラス破損の危険性があったためカーテンで対応)。 ・中学校が地域の避難所として機能し、小学校の生徒も受け入れた。 ・中学生の夜8時には引き渡し完了、小学生は翌朝8時まで預かり対応。 ・防災無線での情報収集が不可欠。停電中のため、明るいうちにテントを設営し本部を設置。 ・地域の建設業者が発電機を提供し、体育館に照明・暖房が確保された。 5. 物資と炊き出し ・大型スーパーが食材を提供し、当日から炊き出しを開始(中学生・高校生が協力)。 ・自衛隊や地域の飲食店からの支援を受け、ラーメンや野菜サラダなども提供された。 6. トイレ問題 ・初日は校舎の水タンクを利用できたが、夕方には枯渇。 ・井戸水をピストン輸送し、トイレの水を確保。 ・タンクレスのトイレではバケツで水を流す必要があったため、避難者と教員が協力して対応。 ・簡易トイレの設置が遅れたため、非常に苦労した。 7. 情報共有と助け合い ・全国から安否確認の電話が殺到(固定電話は通じたが、携帯電話は4時間遅れで着信)。 ・高校生が整理券を作り、毛布配布を効率化。 ・子どもたちが放送や伝言板作成を担当。 ■その後のこと(防災意識の向上と地域の取り組み)

	1. 防災コミュニティの見直し 震災後、自治会の活動が減少傾向にあり、新たなコミュニティの形を模索している。かつては自治体が主導していたが、現在は住民主体の取り組みが求められる。 2. 地域連携の強化 お祭りや運動会を通じて住民同士の交流を促進し、地域のつながりを強化する取り組みが進められている。また、防災マップの作成やホームページでの情報発信を強化し、住民が防災に関する知識を得られるようにしている。 3. 若い世代の防災意識向上 現在の防災コミュニティは後期高齢者が多く、若い世代が不足している。町の防災を担うため、動けるものは何でも使う方針をとっている。 4. 地域防災訓練の重要性 地震だけでなく、町の真ん中を流れる川の氾濫を想定した水害訓練も実施している。また、福島第一原発から3kmの距離に位置するため、原発事故を想定した避難計画も策定されているが、実行できるかどうかは課題が残っている。 ■まとめ ・ハザードマップを確認し、リスクを把握することが重要。 ・地域と学校の連携を強化し、災害時にスムーズに避難できる体制を構築する。 ・職員・地域住民・子どもたちが協力し合い、実際に動ける人が率先して対応することが求められる。 ・様々なケースを想定した避難訓練を継続的に実施することが重要。 ・自治体だけでなく、住民主体でコミュニティを形成し、実効性のある防災対策を進める必要がある。 地域の防災力を高めるためには、日頃からの準備と訓練が不可欠であり、住民一人ひとりが防災に対する意識を持ち続けることが求められる。  
開催地より	東日本大震災のご自身の体験をベースに、自主防災会の取り組みについてお話しいただいた。当市では本日のお話しを受けて、自主防災会との連携強化と防災訓練の実施を進めていく所存である。